

博物館機能(タテ系とヨコ系)と具体的な活動内容想定例

	収集・収蔵機能	調査・研究機能	展示・情報発信機能	閲覧・レファレンス機能
学習支援機能	<p>・収蔵展示 (見て・触れて・体験できる自然資料や民俗資料の収蔵庫など) ・収蔵庫見学 (バックヤードツアーの実施など)  資料保存の大切さを実感できる学びの機会。</p>	<p>・参加型博物館行事 (フィールドワークや歴史探訪等の行事など)  単なる教育普及行事とせず、県内の自然・歴史文化に関するデータ収集的な性格も兼ねる。</p>	<p>・展示、講演会等 (常設展示、特別展・企画展の見学、講演会等の開講) ・情報発信 (インターネットやミュージアムシアター等を活用した情報発信)  展示見学や博物館の行事、情報を通して学び、博物館への親しみを深める。</p>	<p>・モノ資料の閲覧 (実物のモノ資料の閲覧およびそのアドバイスなど) ・レファレンス (三重の自然・歴史文化に関する学習や研究への相談対応) ・「こども研究室」 (こども学芸員の活動の場。自然・歴史文化の楽しみ方・調べ方のアドバイス)  博物館のモノ資料の魅力を知り、活用のきっかけを得る。</p>
県民参画機能	<p>・博物館資料の整理作業への参画 (昆虫・植物標本の作成・整理、古文書等の歴史資料の整理業務への参画) ・資料の寄贈・寄託  実物のモノ資料に触れながら、その保存活動に参画。</p>	<p>・県民参画型の調査活動 (琵琶湖博物館のフィールドレポーター等が先行例)  博物館の調査研究活動に対して広く県民を参画を得て、三重の自然・歴史文化への関心を高める。</p>	<p>・県民参画型展覧会 (みんなでつくろう展覧会など) ・解説ボランティア (展示解説や学校見学対応などの活動への参画)  博物館の展示や情報発信、来館者サービス活動への参画。</p>	<p>・ボランティアアドバイザー (閲覧・レファレンスエリアや「こども研究室」でのアドバイザー活動)  さまざまな得意分野をもった県民の参画を得て、閲覧・レファレンス活動の幅を広げる。</p>
地域交流機能	<p>・資料収集・保全活動 (県内の博物館等と役割分担・協力して地域の自然・歴史文化資産の保全と収集・収蔵活動を行う)  県内全域をフィールドとする収集・収蔵活動を活性化する。</p>	<p>・地域共同研究 (県内各地域の博物館や県民・諸団体と連携して三重の自然・歴史文化の調査・研究を行う)  総合的な見地から、地域の県民・諸施設・団体と共同で「三重」の研究を推進する。</p>	<p>・移動展示および教育普及活動 (県内各地で、移動展示や教育普及事業を実施する)  博物館から離れた県内各地域に博物館が打って出る。</p>	<p>・広域レファレンス活動 (県内の図書館や博物館等と連携したレファレンス活動を行う)  館内だけでなくとどまらず、レファレンス活動を他機関と連携して行うことにより、内容の向上を目指す。</p>
人材育成支援機能	<p>・資料および収蔵庫管理技術の研修・支援 (県内博物館や文化財等資料の所有者や資料の保全・保存・修復に取り組む県民・団体に対する技術支援・研修活動・人材交流などを行う)  三重の資料保全の担い手を育成し、全県的な資料保全の機運を高める。</p>	<p>・「県民学芸員」 (参画ボランティア段階から専門家へとステップアップした県民と共同研究を推進) ・共同研究を通じた人材育成 (共同研究を通して県内研究者相互の能力向上を目指す)  三重県を対象とする研究の活性化をはかる。</p>	<p>・共同企画展 (県内の博物館や博物館協会と連携した共同企画展示を実施) ・県内博物館データベース (県内の博物館等と協力して博物館資料のデータベースを構築する)  展示やデータベースを共同で作成することにより、技術と情報の共有化をはかる。</p>	<p>・レファレンス情報の共有システム (レファレンス活動で得られた情報や経験を県内の図書館や博物館およびその職員等と共有できる仕組みをつくる)  レファレンス情報のデータベース化により、三重の自然・歴史文化への知識を蓄積・共有して相互に活用する。</p>

県民参画

参加・体験

ボランティア参画

専門家として協力

地域の拠点や団体との関係

連携事業

人材育成・技術支援等